でも参加者の熱気の中で有意義な２日間を過ごさせていただきました。学会ならびに国立病院機構熊本医療センターの関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成20年度第１回地域連携クリティカルパス分科会

テーマ：地域医療連携と脳卒中における地域連携クリティカルパスの現状と課題

横手市立大森病院院長　小野　剛

会場風景

平成20年９月27日(土)、日本医療マネジメント学会平成20年度第１回地域連携クリティカルパス分科会が日本医科大学で開催されました。

まず、日本医科大学医療管理学教室主任教授長谷川敏彦先生から「連携を展望する…その過去・現在・未来」と題しての基調講演Ⅰが行われました。連携はつまるところ需要（患者の疾病自然史）と供給（病院経営の効率化）のマッチングであると話されました。次に国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村一俊先生より「地域連携クリティカルパスの基本」と題しての基調講演Ⅱがありました。地域連携クリティカルパスの活用で、施設間コミュニケーションや知識・技術の向上が期待でき、施設間の機能分担も促進できるのではないかとの発言でした。

続いて、「脳卒中における地域医療連携クリティカルパスの現状と課題」と題してのシンポジウムが行われ、急性期医療機関、回復期医療機関、地域包括医療、県行政のそれぞれの立場から先進的な取り組みの発表がありました。とりわけ香川と熊本の取り組みは完成度が高く感銘を受けました。まず急性期側と回復期・維持期側がお互いを理解し顔の見えるより良い連携を構築し、そのネットワークの中で地域連携クリティカルパスを運用していくことがポイントと思われました。

最後に厚生労働省医政局指導課課長補佐 大内みやこ先生から地域医療連携クリティカルパス推進事業への補助制度を含めた心強い特別発言がありました。会場からの質問も活発で大変勉強になる有意義な分科会でありました。

平成20年度第1回医療連携分科会

テーマ：医療計画を理解する～これからの地域医療連携の展望と課題～

財）田附興風会　医学研究所　北野病院

医療連携コーディネーター　重田由美

平成20年10月18日(土)、日本医療マネジメント学会平成20年度第１回医療連携分科会が日本医科大学にて開催されました。全国のさまざまな職種の連携実務者が参加し、会場は熱気に溢れていました。

日本医療マネジメント学会宮崎久義理事長の開会挨拶の後、国際医療福祉大学三田病院副院長の武藤正樹先生と前橋赤十字病院呼吸器科副部長の堀江健夫先生の基調講演があり、疾患別連携とそれを行うツールとしての地域連携クリティカルパスの重要性を学びました。ガイドラインに基づく疾患別地域連携クリティカルパスを作成し連携を行うことで、より質の高い医療の提供と情報共有、機能分化が図れます。「連携の形は整えられ、今度はそこに魂を入れていく」という座長の宮崎県立日南病院の木佐貫篤先生のお言葉通り、今後の連携のあり方について考える内容の分科会でした。

会場風景

パネルディスカッションでは、「これからの地域医療連携の展望と課題：連携実務者は何を理解し何をなすべきか」というテーマで、これからの連携実務者に求められる『コーディネート機能』について議論されました。患者中心の連携を進めていくにあたり、様々な階層においてコーディネーター機能を連携実務者が発揮していくことが大切だと感じました。

平成20年度第１回医療安全分科会

テーマ：医療安全はどこへ向かうのか～いま注目すべき症例検討会と医療メディエーション

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　室井絹代

グループワーク風景

平成20年11月１日・２日の２日間にわたり「平成20年度第１回医療安全分科会－医療安全はどこへ向かうのか～いま注目すべき症例検討会と医療メディエーション－」が社団法人日本看護協会JNAホールで開催されました。

１日目は、まず、２つの特別講演がありました。

「微量採血穿刺器具の再利用問題」を中心に、医療安全情報のリアルタイムな入手方法や活用方法と、「国の医療安全対策の動向」として、医療事故の現状、医療安全対策や医療リスクに対する支援体制整備など「最近の医療安全トピックス」を学びました。そのあと「医療事故に関する症例検討会」では、国立病院機構南九州病院長福永秀敏氏による「効果的な事例検討の仕組み－九州ブロックでの医療安全管理のシステム化－」についての講演と、三重大学医学部附属病院の「事故が疑われる死亡症例の検討会」、NTT東日本関東病院の「多職種を交えた症例検討会」の２つの取組事例報告と討議が行われました。

２日目は、特別講演で「各国の医療関連死への対応と日本の現状」を学び、午後は、最近注目されている「医療メディエーション」について、講義・ロールプレイ・グループワークを通して「相手に関心を持って聴く」ことを学ぶことができた分科会でした。